

優秀賞

生活施設  
(九州・沖縄地区)

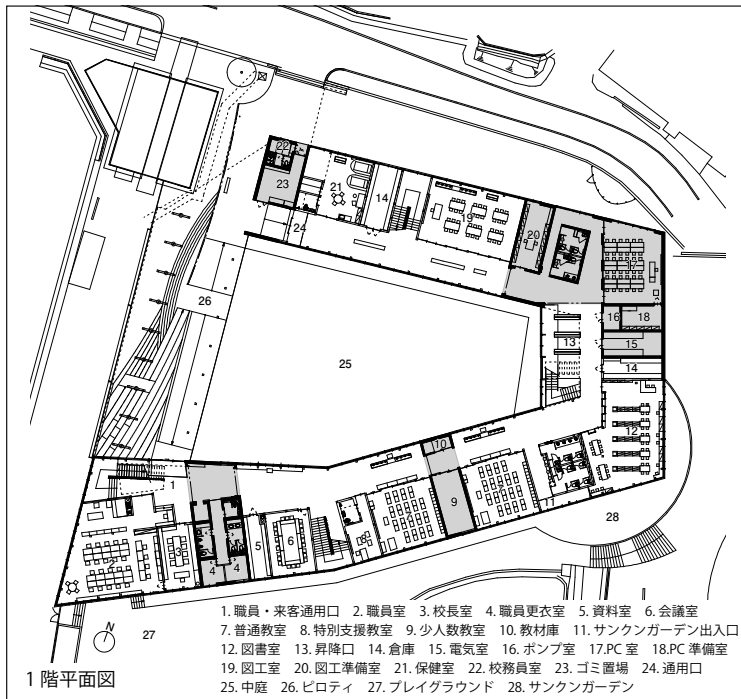
# 山鹿市立鹿北小学校



昇降口前から中庭を見る



ランチルーム



所在地	熊本県山鹿市鹿北町四丁 1469-1
敷地面積 (m <sup>2</sup> )	7,132.61
建築面積 (m <sup>2</sup> )	2,701.20
延床面積 (m <sup>2</sup> )	3,939.63
構造/階数	W + RC 造、他
事業者	山鹿市長 中嶋憲正
設計者	(株) セル アーキテクト
施工者	吉永・稲葉建設工事 JV
竣工年月	2013 (平成 25) 年 3 月
総工事費	1,152.795 百万円

旧鹿北町の3つの小学校統合に伴う新設小学校整備で、過疎化に伴う小規模小学校が抱える課題に、教育委員会、教員、保護者、住民が連携して取り組んだ事業である。

整備に当たっては、地元特産の「アヤスギ」を活用した大規模木造建築とし、隣接する市のグラウンド、体育館、中学校と機能連携を図り、既存施設の有効利用、コンパクトな事業としている。設計者（プロポーザルで選定された県内事務所）は、機動力に富み、職員や住民などのワークショップを開催したほか、地元産材を活用するために、地元製材所から調達可能な木材に絞り込み、構造設計者と緊密な調整を行って、RC造併用の在来工法による大規模木造建築を実現した。

狭い敷地を有効活用するため、中庭を囲む校舎配置としているが、中庭はピロティにより視界が開かれ開放的になっている。

教室棟の配置も、騒音・振動（上下階や音楽室等）、防犯（外部視認性）等の課題に専門家に助言を求めて取り組み、随所に工夫がなされている。

仕上げ材のみならず、構造材も「触れる」「見せる」木造校舎を実現し、さらに地元大工が施工に携わり木造技術の継承や地元振興に大きく貢献している。

児童も元気に走り回り、地域住民が参加できる学校開放もあり、地域に開かれた明るく楽しい学校となっている。このように、山間部の過疎化を抱える学校の整備・運営のプロトタイプとなる事業として高く評価できる。

## 地域の人々が育むまちの学校

地元木材をふんだんに使った構造材や仕上げ材は、手にふれるあたたかな素材でできた癒しの空間であり、環境教育や地域学習の教材でもあり、壁は掲示板にもなります。行き止まりのない平面を児童たちはのびのびと歩き回り、囲われた中庭で学び、遊ぶ。広いピロティは、スクールバスの待機所であり、集会所でもあります。

隣接する中学校のほか、日常的に町民グラウンドや体育館等、鹿北地区の多くの住民が利用する公共施設を共用しており、児童は地域に開いて、守られている。地域の小中学生を地域の人々が育む「まちの学校」となっています。

(下津光雄・山鹿市立鹿北小学校長)